



図2 第10肋骨-肋軟骨移行部の解剖学的多様性

- A : 腹壁の3層構造が直線的な例であるが、この例では内腹斜筋内の太い筋を筋膜と間違えないよう注意が必要である。
- B : 腹横筋膜面が不整な例。肋軟骨直下で超音波ビームにはほぼ平行になっているため、描出が悪い。
- C : 肋軟骨下面と腹横筋膜面が接していない例。この場合も筆者は肋骨下に投与しているが、明らかに内腹斜筋内に薬液が広がる様子が観察された場合は、針先を調整して薬液が腹横筋を押し下げた所見が得られるようにしている。

CC¹⁰ : 第10肋骨, CC¹¹ : 第11肋骨,

☆ : 薬液を投与する位置

